

Japanese
God In His People
50-0227

神はご自身の民の内に宿られる
リトルロック アーカンソー州 アメリカ合衆国
1950年02月27日



www.messagehub.info

ウィリアム・マリオン・ブラハム
"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその
僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就され
る。" 黙示録 10:7

はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

神はご自身の民の内に宿られる

1 もし私が神様から恵みをいただいているとするなら——そして私は、神様がその恵みを与えてくださっていると感じています——あなたがたの信頼を得ることができれば、この集会の中で、必ず何かが起こるでしょう。そしてそのとき、あなたは理解するはずです。神が私たちと共におられるということ。

さて、多くの方が大きなことを言っていますね。新聞や雑誌などにもこう書かれています——「ブラナム兄弟、神の癒し手」と。

しかし、そのようなものは存在しません。

人間が“神の癒し手”であるなどということはありません。

癒すことのできる方はただお一人、キリスト、神の御子だけです。

癒し主は神です。

人はただ、癒しを“表している”にすぎません。

人はキリストを代表しているのであり、癒しを代表しているのです。

キリストを代表するすべての人は、癒しもまた代表すべきです。

なぜなら、私たちが癒されるのは、キリストのうちにあってだからです。

2 そして、多くの方は「賜物」という考えそのものを理解できません。

しかし聖書は言っています。

「彼は高い所に上られ、そして人々に賜物を与えられた。」

私たちが行うすべてのことは、純粋に聖書に基づいていなければなりません。

もし聖書的な土台がないなら、それは正しくありません。

しかし、聖書に基づいているものなら、耳を傾けることができます。

それが神からのものであるなら、神ご自身がそれを証しされます。

もし神でなければ、神は証しされません。人だけが証しするでしょう。しか

し神からのものであるなら、神はご自身で証しされるのです。

さて、今夜大勢の方々が集まる前に、ここ壇上から少しお話するために、毎日午後にも集会を持っています。

通常、最初の夜にいくつかのことを説明するのがよいと思っています。皆さんが理解できるようにするためです。

そして皆さん一人一人に、どうか私を助けていただきたいのです。

なぜなら私は、この集会について、私たち全員が裁きの日に答えなければならぬことを知っているからです。

この集会のために、それぞれが責任を負います。

私は、自分の語ることについて答えなければなりません。

自分の行うことについても、答えなければならぬのです。

3 そして、私がキリストをあなたがたの前にお連れするとき、その責任はあなたの手の中に置かれます。

あなたは、そのとき自分がどのような態度を取ったかについて答えなければなりません。

退けたのか、受け入れたのか。

神は、この集会に対するあなたの態度について、あなたに問いかけられるでしょう。

ですから、これは非常に神聖なことだということを理解していなければなりません。

リンゼイ兄弟とムーア兄弟は、この集会のマネージャーとして働いています。

彼らは聖潔派の二つの教派を代表しています。

私はというと、どの教派にも属していません。

かつてはバプテストでした。

しかし、彼らの意向によって、今はもうそこにはいません。

これが真理なら、「アーメン」と言ってください。

祈り

父なる神よ、

今、あなたご自身をこの民の上に注いでください。

一人残らず癒されますように。

主よ、彼らは病んでいます。

あなたの御霊がこの貧しい、へりくだったしもべの上に臨み、

罪が明らかにされ、

あらゆる病が今夜ここで癒されますように。

私たちはイエスの御名によって求めます。

アーメン。

なぜなら私は、神の癒しと、癒しの賜物、そして聖霊のバプテスマを教えているからです。

そして私は、それが真理であることを知っています。

それで、彼らが私をそこから追い出したとき、聖潔派の人々が私を受け入れてくれました。

彼らは、その賜物が自分たちの教会に来るように、四十年以上も祈ってきたのだと言いました。

ですから、私はこう思うのです。

神が、私を本来いるべき場所に置いてくださったのだと。

4 私はどの教派に対しても反対しているわけではありません。

神は人をえこひいきなさない方だと知っているからです。

神はメソジストも、バプテストも、カトリックも、ペンテコステ派も、すべての人を癒されます。

神はあなたの教会の所属を見られるのではありません。

神が見られるのは、あなたの信仰です。あなたが神に対して持っている信仰を尊ばれるのです。

さらに言えば、癒されるために必ずしもクリスチャンである必要はありません。

しかし、癒されたままではいるためには、クリスチャンにならなければなりません。

「行って、もう罪を犯してはならない。さもないと、もっと悪いことが起こる。」

ですから……

私は何度も見てきました。

敬虔に生きてきた男女の聖徒たちが祈りの列を通っても、癒されないことがあるのです。

一方で、通りの娼婦がその列に並び、癒されることもあります。

それは信仰にかかっているのです。

主が地上におられた時代を見てみましょう。

祭司たちは聖なる人々でした。祭司であるためには、聖くなければなりませんでした。

御言葉の学者でなければなりませんでした。

彼らに向かって軽蔑の指を向けられるような人はいませんでした。

彼らは聖く、義しい人々だったからです。

しかし、その祝福を受けることができなかつたのです。

時には、異邦人や不信者がイエスを見、御業を見て、「この方は私を癒してください」と信じ、癒されたのに、祭司たちは癒されなかつたのです。

すべては——信仰にかかっているのです。

5 多くの人は主を理解していました。

そして「民衆は喜んでイエスの話を聞いた」とあります。

今日も、それはある意味で同じです。

私は見てきました。ほとんどすべての教派の人々が集会に来ます。

正教会の人々、ユダヤ人、ギリシャ正教、カトリック、あらゆる背景の人々です。

しかし神は、どの教派をも特別扱いされません。

神が尊ばれるのは、その人のうちにある信仰です。

「あなたがたが信じるなら、わたしはできる」と主は言われました。

そしてまたこうも言われました。

「行って、もう罪を犯してはならない。さもないと、もっと悪いことが起こる。」

ですから、癒しを受けた後は、クリスチャンとして生きる必要があります。

そうでなければ、癒しを保つことはできません。

御言葉の中におられますか。

御子の中におられましたか。

ご自分の民の中におられますか。

もしそう信じるなら——

今ここにもおられます。

私は信じます。

今この建物の上に、聖霊なる神が流れておられると。

同じ神が、ここにいるすべての人を癒すことができると。

神はご自分の民の中におられる。

夜に主が呼ばれるなら、私は応えます。

ハレルヤ。

あなたは私をおかしいと思うかもしれませんが。

でも私はそうは思いません。

かつて私は罪人でした。

今はクリスチャンです。

かつて私は盲目でした。

今は見えます。

ある日、「ブラナムさん、もう終わりです」と言われました。

二年前にも「あなたは終わった」と告げられました。

しかし今夜、私はこれまでで最も健康です。

神は今もご自分の民の中におられる。

それを信じますか。

Whom in heaven but Thee?

(やさしい救い主よ、私を通り過ぎないでください。

私の humble な叫びを聞いてください。

ほかの人を呼んでおられる間にも、

どうか私を見過ごさないでください。

あなたこそ私の慰めの源、

命よりも尊いお方。

地上であなたのほかには誰がいるでしょう。

天においても、あなたのほかには誰がいるでしょう。)

また別の人は、こう書きました。

Living, He loved me;

Dying He saved me;

Buried, He carried my sins far away;

Rising, He justified freely forever:

40 それは何でしょうか。

神はご自分の民の中におられる。

神は御言葉の中におられる。

神はしもべの中におられる。

神は預言者の中におられる。

神は癒しの中におられる。

今夜、この建物の中に神がおられると信じますか。

神は被造物の中におられますか。

そして私はここで一つ言いたいのです。

贖いが二重の意味を持つことについて——

あなたが癒される時、あなたの罪は赦されています。

あまり「アーメン」が聞こえませんが、これは真理です。

「互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。そうすれば、あなたがたは癒される。」

癒しと赦しは、切り離されたものではありません。

どちらも同じ贖いのうちにあるのです。

6 「行って、もう罪を犯してはならない。さもないと、もっと悪いことが起こる。」

そしてイエスは言われました。

「どちらが易しいか。『あなたの罪は赦された』と言うことか、それとも『起きて床を取り上げて歩け』と言うことか。」

それは同じことなのです。

私はヤコブの手紙5章14節を信じます。

「あなたがたの中に病気の者がいるなら、教会の長老たちを招き、主の御名によって油を塗り、祈ってもらいなさい。信仰の祈りは病人を救い、主はその人を立ち上がらせてくださる。もし罪を犯していたなら、それも赦される。」

そしてこうもあります。

「互いに罪を告白し、互いのために祈りなさい。そうすれば、あなたがたは癒される。」

これはすべての福音の牧師の務めです。

どの牧師にも、自分の会衆のために祈る権利があります。

そして会衆にも、神を信じて癒される権利があります。

神の癒しは、ひとりの人や、ひとつのグループに属するものではありません。

それはすべての人のものです。

癒しの賜物は、国中を巡って特別な癒し集会を開くためだけに与えられたものではありません。

それが行われるのはよいことですが、それが本来の目的ではありません。

本来あるべき姿は――

すべての教会において、常に、どこでも、癒しの働きが行われていることなのです。

7 多くの人が、このような集会について誤った印象を持っています。

伝道者がそこにいるから癒しが起こるのだとか、

その人がいなくなれば、癒しの力も去ってしまうのだとか――

そのように考えてしまうのです。

しかし、神は全地を満たしておられます。

「どうして私の牧師にはそれができないのか？」

そう思う方もいるでしょう。

けれども、それは間違った考え方です。

あなたの牧師が敬虔な人であるなら、

その祈りは、どんな伝道者の祈りとも同じように答えられます。

どんな賜物を主張する人であっても、同じです。

牧師もまた、神の人なのです。

ですから、その方を尊び、信頼しなさい。

そうすれば神は、その祈りに答えてくださいます。

主は言われました。

「互いに罪を告白し、互いのために祈りなさい。そうすれば、あなたがたは癒される。」

すると突然、エドワード・ペロネットという別のの人に歌が与えられました。

部屋に座っていた彼の上に、神の御霊が臨んだのです。

彼はペンを取り、こう書きました。

All hail the power of Jesus' name!

Let angels prostrate fall;

Bring forth the royal diadem,

And crown Him Lord of all.

(イエスの御名の力をほめたたえよ。

御使いたちはひれ伏せ。

王の冠を差し出し、

すべての主として冠をささげよ。)

また、盲目のファニー・クロスビー。

一度も日の光を見たことのない彼女が、ある日部屋に座っていると、

神がその盲目の詩人の上に臨まれました。

そして彼女は書きました。

Pass me not, O gentle Saviour,

Hear my humble cry;

While on others Thou art calling,

Do not pass me by.

Thou the stream of all my comfort,

More than life to me,

Whom have I on earth beside Thee?

私は一言も言い返しませんでした。

ただ壇上に歩いて行き、

「いいえ、私は偽物ではありません」と言いました。

そのときです。

神が、私の証人であられるその神が——

天から火の渦のようなものが下って来ました。

ハレルヤ。

神が降りて来られ、

機械のレンズに、

聖霊が私の上に立っておられる姿を撮らせたのです。

神はご自分の民の中におられます。

ハレルヤ。

私たちが、神がご自分の民の中におられると信じるなら、

そこに確かな土台があります。

それは空想ではありません。

詩人の心を揺り動かしたその神です。

想像ではなく、

神を信頼し、

神を信じた人々の現実なのです。

39 あるとき、一人の人がいました。

彼は歌を書こうとしていましたが、どうしても書けませんでした。

何を書けばよいのか分からなかったのです。

すべての人が同じ形で持っているわけではありませんが、
聖霊を持つ者には、それぞれの分に応じて癒しの賜物が与えられています。

木に実るすべてのりんごは、

まだほんの小さな芽のときから、その中にすでに含まれています。

地に植えられた小さな若枝の中に、

その木に将来咲くすべての花が、すでに含まれているのです。

8 花は空から降って来るものではありません。

地面の下から突然湧き上がるのでもありません。

花は、すでに木の中にあるのです。

りんごも、すでにその中にあります。

木は地に植えられ、ただ一つすべきことは——

飲むことです。

水を吸い上げるのです。

そして自分の分以上に吸い上げると、内側から押し広がり、芽が伸び、花が咲きます。

それと同じように、私たちはキリスト・イエスのうちに植えられています。

尽きることのない「いのちの泉」の中にです。

そして私たちが飲み始めると——

飲めば飲むほど、内側から押し出されるのです。

その結果、内にあるものが外に現れてきます。

神があなたに召し与えた賜物も、そうして現れるのです。

問題は何かということ——

あなたが飲まないことです。

あなたは、本当に主が尽きることのないいのちの泉だと信じていますか？

「地の果てのすべての者よ、わたしに来て飲め。」

悪魔は、あなたがどれだけ集会に来ても気にしません。

ただし——飲まない限りは。

来て、飲みなさい。

この集会の目的は、まさにそれなのです。

あなたが飲むためなのです。

9 泉は開かれています。

どこにでも、自由に流れています。

もうこれ以上飲めない、というほどまで飲みなさい。

もし木が、自分の割り当て分だけしか水を吸わなければ、

干ばつの中でいつまでも小さいままでしょう。

クリスチャンも同じです。

十分に飲んでいないのです。

飲んで、内側から広がりなさい。

そして、それを誰かに見せなさい。

押し広げなさい。

証しを持ちなさい。

それを神に委ねなさい。

信じなさい。

踏み出しなさい。

しかし彼らは、神の御言葉を信じてエルサレムに上り、
しばらくそこにとどまりました。

そして突然——

神が彼らの中に住むために降りて来られたのです。

そのとき何が起こりましたか。

彼らは窓や戸を通り抜けるようにして外へ出て行き、
通りへと飛び出しました。

もう恐れはありませんでした。

私たちの神が降りて来られたのです。

三位の第三の位格として、

再び肉に現れ、

今夜もご自分の民のうちに生きておられます。

ハレルヤ。

神ご自身——

聖霊なる神が、

ご自分の民の中に住んでおられるのです。

38 数日前のことです。

ある牧師が公然と私に挑みました。

「神の癒しなどない。

ブラナム兄弟は偽物だ。

宗教を利用しているだけだ。

神の癒しはまやかして、彼こそその筆頭だ。」

四日間死んでいたその男が、
今、生きて立っているのです。
ハレルヤ。
神は御子のうちにあつて、
世をご自身に和解させておられました。
あなたは、神が御子のうちにおられたと信じますか。
そのとおりです。
神はキリストのうちに住んでおられました。
そしてキリストは人として死ななければなりませんでした。
私たちが父なる神のもとへ贖い戻すために。
まさにそのとおりです。

37 ああ、もう少しこのことにとどまりたいのですが、時間が迫っています。
神は御子のうちにおられました。
神は宇宙の中におられます。
神は御言葉の中におられます。
そして今——
神はご自分の民の中におられます。
それを信じますか。
神がご自分の民の中に住んでおられることを。
確かにそのとおりです。
百二十人の人々がいました。
臆病で、恐れていた人々です。

神の約束を自分のものとして受け取りなさい。
「あなたの道を主に委ねよ。」
そうすれば、主がそれを成し遂げてくださいます。
しかし、あなたが握ったままでは、主は働けません。
「少し様子を見てみよう。よくなっているか確かめよう。」
そんなふうにしてはだめです。
完全に主に委ね、あとは忘れなさい。
まだ見えていないことを証ししなさい。
大切なのは、見えるかどうかではありません。
信じるかどうかです。
感じるかどうかでもありません。
主は「感じたか?」とは言われませんでした。
「信じたか?」と尋ねられたのです。
救われるのは信仰によってです。
癒されるのも信仰によってです。
信仰とは、望んでいる事柄の実体であり、
目に見えないものの確証です。
見えなくても、
味わえなくても、
感じなくても、
嗅げなくても、
聞こえなくても——

ただ信じるのです。

そして、それがすでにあるかのように行動しなさい。

アーメン。

10 その話を続けていたら、通路いっぱいには祈りの列ができってしまうでしょうね。

でも、それこそこの集会でなされるべきことなのです。

さて、この集会の進め方についてですが――

私たちは、知り得る限り最善の形で行っています。

私はほとんどの時間を祈りに費やします。

そうしなければならないのです。

前回ここに来たとき、ブラウン兄弟と共に、州議事堂の下にあるペンテコステ教会で集会をしましたが、私たちは朝方まで祈り続けました。

ところで、その教会である晩起こった出来事があります。

私はそれを全国で証してきましたが、これまで見た中で最も痛ましい光景でした。

後ほどそれに触れるかもしれませんが。

その方が今ここにおられるかもしれませんから。

地下室の床に、仰向けに横たわっていた一人の女性のことです。

あの夜のことは、決して忘れられません。

もしその女性がこの建物の中におられるなら、手を挙げてくださいますか。

どこかにおられるでしょうか。

どうか、この集会に来られますように。

11 今は手が見えませんでしたけど……

その女性は、背中で床を這っていたのです。

聖書は言っています。

「彼には、私たちが慕うべき姿も美しさもなかった。」

弱々しい小さな体がそこに立ち、

頬を涙が伝っていました。

しかし――

突然、神がその上に臨まれたのです。

その小さな体をまっすぐに起こし、

そこに横たわっていた一人の男に向かって叫ばれました。

その男は、四日も墓の中において、

体は腐り、皮膚の中を虫が出入りしていました。

主は大声で叫ばれました。

「ラザロよ、出て来なさい。」

何が起こったのですか。

涙の向こうから神が見つめ、

その人間の唇を通して神が語られたのです。

「ラザロよ、出て来なさい。」

ラザロは死んでいました。

魂は四日間、永遠の領域にありました。

どこにいたのか、私たちには分かりません。

それについては議論しません。

しかし、その腐りかけた体の中で、

創造主を腐敗が知ったのです。

その子は、脳性麻痺の子どもでした。
 しばらくして、その子がテーブルから落ちるのが見えました。
 私は、見えるままに語り始めました。
 また、車椅子に座ったまま、
 これまで一度も歩いたことのない少女が立っていました。
 そして次の瞬間、
 その少女が通りを歩きながら、
 人々に手を振り、主を賛美している姿が見えました。
 私は、ただ見えた通りを語っていました。
 その少女に向かって言いました。
 「立ちなさい。イエス・キリストがあなたを癒されました。」
 すると彼女は立ち上がり、
 そのまま会堂の中を歩いて行ったのです。
 失敗したことはありません。
 そうならなければならないのです。
 ああ、ハレルヤ。
 このことを思うとき、友よ、
 どうか誤解しないでください。
 (テープに空白スポットー編集)

36 (このテープの残りの部分は、別の説教の一部かもしれませんが――)
 主は、人間のように泣いておられました。
 それは真実です。

私は精神病院で、若い女性が便器を使って顔を洗うような場面も見てきました。
 しかし、あの夜ほど胸が締めつけられる光景は、他にありませんでした。
 あれ以来、私はいつも思ってきました。
 その頃、私の奉仕はまだ始まって数か月しか経っていませんでした。
 しかしリトルロックの人々は、本当に素晴らしい応答を示してくれました。
 それで私は、いつか必ずまたリトルロックに戻って来たいと、ずっと思っていたのです。
 そしてあれ以来、この賜物には大きな進展がありました。
 それについては、すぐに説明します。
 以前よりも、はるかに明確で、力強くなっています。
 そして今、神はあらゆる場所で、それを証ししておられます。

12 午後の集会を持つのは、備えのためです。
 もしお仕事などでどうしても無理でないなら、ぜひ午後の集会にもお越しください。
 リンゼイ兄弟やマネージャーの方々が、癒しにどのように近づくべきかを話してくださいます。
 それは皆さんにとって、とても大切な備えになります。
 夜の集会に向けて、心を整える助けになります。
 そして、もう一つ覚えておいていただきたいことがあります。
 昔、私たちは「ファストライン」と呼ばれるものをしていました。
 覚えている方はいらっしゃるでしょうか？
 ——ああ、ここでは私はよそ者ではありませんね。
 あのファストラインは、結局のところ正しい形ではありませんでした。

十分な実を結びませんでした。

それで、神が賜物にもう一つの側面を加えてくださったとき、

私は主に約束しました。

もうファストラインは行わない、と。

今はただ一つです。

本当の祈りの列、癒しのための祈りの列だけです。

13 そして多くの場合、私たちは人々に示そうと努めます。

主が私の信じているとおりに祝福してくださるなら、

この集会の終わる前に、神に救われた皆さんの牧師方を一堂に集めたい
と思っています。

そうすれば皆さんは、自分の牧師が神の人であることをはっきりと見る
でしょう。

そして、あなたが信じるなら、牧師にも病人に手を置く同じ権威がある
ことがわかるでしょう。

さて、私たちのやり方ですが——

私の実の兄弟がいます。

彼は第二次世界大戦で四年間海軍に従軍し、除隊したばかりでした。

戦争の結果、彼は完全な重度障害と診断され、

一生車椅子から動けないだろうと言われました。

ニューヨークのロングアイランドにある海軍病院で、

アメリカ海軍でも最高の医師の一人がこう言ったのです。

「あなたの人生は終わった。

これからはそこに横たわったままだ。

もう二度とそこから立ち上がることはできない。」

神はあなたを呼び出し、

あなたが誰であるかを明らかにし、

そしてあなたを立ち上がらせます。

ベッドからでも、担架からでも、

どこにいてもです。

数日前のことです。

ある牧師が、主の御業を見ていました。

主は彼にあることをするように示しましたが、

彼は従いませんでした。

その後、彼は苦しみ始めました。

彼は骨移植を受けて横たわっていました。

そのとき、私は横を見ると、

体がひどく曲がった一人の男性が見えました。

彼が高い場所に登って作業しているのが見えました。

索具作業員で、

「ダブル・シープシャンク」という結び目を結んでいる姿が見えました。

私は見えたままを語り始めました。

その状況や出来事を。

そして——

そのとき、癒しが起こったのです。

35 一人の小柄な女性が、腕を伸ばして座っていました。

私は、一人の母親が毛布に包まれた子どもを抱えているのを見ました。

イエス・キリストを証しし、
 イエス・キリストを人々の前に示します。
 アーメン。
 その「アーメン」という言葉が私は好きです。
 それは「そのとおりです」「そうなりますように」という意味です。
 私はそれが好きなのです。

34 よろしいですね。

この御使いは、イエス・キリストから遣わされ、
 終わりの日が来ていることを教会に証しするための御使いです。
 それ自体が人を癒すのではありません。
 しかし、あなたの信仰を引き上げる助けをします。
 壇上に立っている人を見てください。
 ここにいる皆さんの中で、
 集会が終わる前に祈ってほしい方、手を挙げてください。
 ——かなりの人数ですね。
 祈りのカードを持っている方も多い。
 覚えていてください。
 神が壇上で何かをなさるとき、
 それはあなたに対する神の態度でもあります。
 それを信じますか。
 壇上で御業がなされている間、
 あなたが心から信じ、疑わないなら——

14 彼の心臓の三つの弁は、リウマチ熱によって閉じていました。

さらに、カサブランカ上陸作戦のとき、

護送船団の三分の二が撃沈され、彼はその衝撃で神経をやられてしまいました。

彼は病院のベッドに横たわり、

声も出ないはずなのに、叫び続けていました。

母と私の名を呼びながら、泣き叫んでいたのです。

母は、彼を帰国させるために誓約書に署名しなければなりませんでした。

もし帰路で彼が亡くなれば、その責任は母が負う、という条件でした。

そして、ようやく家に帰ってきたとき、

彼はこう言いました。

「ただ兄に会いたい。」

——今ここにいる彼は、完全な健康体です。

本来なら、そのとき主に立ち返るべきでした。

しかし彼はそうせず、曲芸師となってアクロバットの仕事に出て行きました。

そのため主は彼を取り扱われ、

再び彼をここへと戻されたのです。

そして今、彼はこの集会で私を助けています。

15 私たちは、こういう方法を試してきました。

以前は、祈りのカードを牧師方に渡し、それぞれの会衆に配ってもらって
 いました。

けれども、それが問題を引き起こしてしまったのです。

ある牧師の会衆が先に並び始め、集会が終わる前に列がいっぱいになっ

てしまうこともありました。

私たちは、一人一人が確かに癒されるまで時間をかけて祈ります。

壇上から、その人が癒されるまで離れません。

どんな状態であってもです。

ひどく不自由であっても、体が曲がっていても、耳が聞こえなくても、話せなくても、目が見えなくても――

神がその人を癒されるまで、そこにとどまります。

しかし、そのやり方はうまくいきませんでした。

16 私たちは以前、「ファストライン」という方法も行いました。

しかし、それも正しい形ではありませんでした。

そして私たちは、今の方法がこれまでで最も良いと分かったのです。

それは、聖霊によって示された方法だからです。

私たちは会衆の中に降りて行きます。

そして私の兄弟が、毎日五十枚の祈りのカードを配ります。

ところが人々はこう考え始めました。

もし番号1、2、3をもらえたならいいけれど、15番や20番を過ぎると、自分の番が回ってこないかもしれない、と。

そうすると、祈りのカードを欲しがらなくなるのです。

そして逆に、カードを得ようとして押し寄せ、特に何千人も集まる大きな集会では、兄が取り囲まれて大変な状態になることもありました。

カードをもらえなかったらどうしようと、必死になるのです。

17 それで、聖霊が私に語り、この方法を取るように示してくださいました。

私たちはただ五十枚の祈りのカードを配ります。

しかし、どこから祈りの列が始まるのかは、誰も分かりません。

「それをしてはならない。

わたしはあなたと同じしもべであり、

預言者たちの仲間である。

神を礼拝しなさい。」

そうではありませんか。

聖霊がおられるからといって、

御使いの働きが消えるわけではありません。

神は、ご自身の方法で働かれるのです。

33 聖霊の時代は始まり、

今も続いており、これからも続きます。

そして神は、御使いたちの奉仕を通して教会を導いておられます。

御使いは神から遣わされた霊であり、

神のご計画を遂行するための働き手です。

歴史を通して、特別な召しを受けた人々に、

御使いは訪れてきました。

しかし、御使いを礼拝することは間違いです。

(それは誤りです。ブリガム・ヤングのような教えとは違います。)

神の御使いは、

神の真理を証しするために現れます。

御使いは神を宣言します。

意味の分からない神秘的なものを広めるものではありません。

御使いはイエス・キリストを語り、

ペンテコステの日に説教したのは彼です。
 では、彼が牢に入れられていたとき、
 彼を起こして外へ導き出したのは誰でしたか。
 聖霊そのものではなく——
 主の御使いでした。
 そうではありませんか。
 パウロが聖霊を受けていたと信じますか。
 彼が船で遭難しそうになり、
 十四日間も星も月も見えず、
 何の光もない中にいたとき——
 彼は船底に下りて祈り、
 戻って来てこう言いました。
 「元気を出しなさい。
 私が仕えている主の御使いが、昨夜わたしに現れた。」
 そうではありませんか。
 彼は聖霊を持っていました。
 ヨハネが聖霊を受けていたと信じますか。
 『黙示録』全体は、
 御使いによって彼に示されました。
 「わたしは、わたしの御使いを遣わした。」
 ヨハネはその御使いを拜もうとしてひれ伏しました。
 すると御使いは言いました。

私が会場に入ってきて、小さな子どもに数えてもらったり、
 いくつか区切って、その中のある番号から始めたりします。
 兄も知りません。
 私も知りません。
 誰も分からないのです。
 それは地元の人であっても、遠方から来た人であっても同じです。
 以前は、地元の人だけにカードを配っていました。
 しかし、それでは遠くから来た人にチャンスがありませんでした。
 中には、牛を売ったり、保存食を売ったりして、やっとの思いで集会に来る人もいたのです。
 それなのに、地元の人だけが祈ってもらえるのでは、不公平です。
 ですから今は、すべての人に公平にしています。
 カードを配り、受け取った人がそのまま列に並ぶのです。
 それでよいのです。
 18 ある人が「1番」のカードを持っていても、最初に呼ばれるとは限りません。
 もしかしたら「40番」から始まるかもしれません。
 それは壇上に立つまで誰にも分からないのです。
 そして、神に決めていただきます。
 そこから何人かを選び、
 その晩、主が召しておられる人が列に入って来るのです。
 翌日の夜には、また新しいカードを配ります。
 そうすることで、毎日来る人にも、初めて来る人にも、公平になります。
 「今日カードをもらえなかったら、明日その人は死んでしまうかもしれない」

と言う人もいます。

しかし、この方法なら、すべての人に機会があります。

ただ主が召されるままに。

そして今では、賜物に新しい働きが加えられています。

それは会衆の中で語りかけ、

どこにいても人を呼び出すのです。

列に並んでいなくても、

主が指し示されるなら、その人が呼ばれるのです。

19 では、ここで聖書から一節だけお読みします。

これから毎日午後に来て、祈りのカードを受け取ってください。

そして祈り深くあってください。

この集会のために祈ってくださる方、手を挙げてください。

——ありがとうございます。

これはあなた方の集会です。

私たちは、できる限り皆さんを助けるためにここにいます。

しかし、この油注ぎについては、私は何もできません。

それは自ら来るのです。

もしそれが来なければ、私は壇上を降ります。

ここに留まることはできません。

なぜなら、私が語ること、主張することには、

それを成し遂げる超自然的な存在が必要だからです。

人間には、それはできません。

31 神の賜物と召しとは、取り消されることがありません。

マリヤに御使いが現れ、

ザカリヤにも現れました。

それらは真実です。

さて、祈りの列を始める前に、

一つだけ整理しておきたいことがあります。

ある人々はこう言います。

「聖霊が来てからは、教会を導くのは聖霊であって、

もう御使いが現れることなどない。」

ここには聖潔派の方々が多いでしょうから、

率直にお話しします。

数か月前、ある人が私に言いました。

「ブラナム兄弟、あなたを一人の人として尊敬している。

しかし御使いがあなたに現れたという教えは誤りだ。

今は御使いは必要ない。聖霊がおられるのだから。

聖霊が来られた後、御使いは去ったのだ。」

それは間違いです。

ピリポが聖霊を受けていたと信じる方、手を挙げてください。

では、彼がサマリアでリバイバルをしていたとき、

彼に触れて「ガザの荒野へ行け」と告げたのは誰でしたか。

主の御使いではありませんでしたか。

32 何人がペテロが聖霊を受けていたと信じますか。

「神の賜物と召しとは、取り消されることがない。」
 これらのものは、生まれながらに与えられているのです。
 あなたは予定説を信じますか。
 すべての人について、という意味ではなく——
 しかし、あることは神によって前もって定められているのです。
 イエス・キリストは、エデンの園においてすでに約束されていました。
 「あなたの子孫は蛇の頭を打ち砕く。」
 そう信じますか。
 モーセも、神によって前もって定められていました。
 生まれたとき、「立派な子」であったとあります。
 そうではありませんか。
 また、バプテスマのヨハネについても——
 彼が生まれる七百年以上前に、
 「荒野で叫ぶ者の声」と預言されていました。
 エレミヤもそうです。
 神は言われました。
 「あなたが母の胎内に形づくられる前から、
 わたしはあなたを知っていた。
 あなたを聖別し、
 諸国の民への預言者として立てた。」
 生まれる前からです。
 それが聖書の証しではありませんか。

前回ここに来たときのことを覚えていますか。
 人の手を握ることで、病気が示されました。
 覚えている方はいますか。
 そして、私がこう言ったことを覚えていますか。
 私に現れた御使いが言いました。
 もし私が敬虔であるなら、
 モーセに与えられたように、もう一つのしるしが与えられる、と。
 それは、
 人々の心の秘密を語り、
 真実であることを証明するしるしでした。

20 私が「あれは必ず成就する」と言ったのを覚えている方、どれくらいおられますか？

そうです。
 それは、すでに成就しました。
 これが起こってから、今は五回目の集会になります。
 それは突然、起こりました。
 そして三回目の集会でその働きが現されたとき——
 何千人もの人が壇上で見てきた、あの偉大な神の御使いが、
 その御方が、先日の夜、私を御そばに立たせ、
 共に写真を撮ることを許してくださいました。
 人類の歴史の中で、そのようなことが起こったのは初めてのことでした。
 私は今夜、それをしてくださったことを心から感謝しています。
 そして地上にいる間、できる限り主に仕え、主の民に仕えるために働きま

す。

さて、聖書を読む前に――

あなたの態度が大切です。

どうか他の人にも伝えてください。

私は今夜以降、このことについては語りません。

しかし、あなたがこの賜物に対してどのような態度を取るかが、

あなたの癒しを決定します。

21 今や、神が私たちと共におられることは科学的にも証明されています。

その写真がここにあります。

その写真をご覧になったことのある方はどれくらいおられますか？

今夜も展示されていると思いますし、手に入れることもできるでしょう。

かつてはこう言う人がいました。

「神は科学的に証明できない」と。

しかし、もはやその懐疑論は通りません。

超自然的な存在がいることは、科学的にも確認されたのです。

そしてその超自然的な存在こそ、

神の御子イエス・キリストの御霊です。

ですから、これらのことが語られる理由を疑う人がいるなら――

イエス・キリストの御霊が、今この中におられるからです。

ナタナエルのことを覚えていますか。

ピリポが彼を主のもとに連れて来たとき、イエスは言われました。

「見よ、まことのイスラエル人だ。そのうちに偽りが無い。」

今夜、もし聖霊が来られるなら――

壇上に来る人たちをよく見ていてください。

八フィート、十フィートほど近づいたとき、

顔つきが変わるのが分かるでしょう。

患者の様子を、よく見ていてください。

29 多くの人が、よろめいたり、気を失いそうになったりします。

顔をこすりながら泣き出す人もいます。

ほとんどの場合、とても不思議な感覚に包まれるのです。

他の集会に出られた方、それが本当だにご存じでしょう。

そのとき人々は、神の御使いの臨在を感じるのです。

ここに掲げられている写真もあります。

科学的にも確認されたものです。

壇上に立つとき、彼らは知るので。

自分が超自然的な存在の前に立っていると。

それは私ではありません。

私は皆さんの中の最も小さい者にすぎません。

ただの通り道、器なのです。

どなたかが宣言しなければならいだけです。

そして、たまたまそれが私だったということです。

私は、生まれる前から召されていたのだと信じています。

賜物というものは、ただ無作為に配られるものではないのです。

30 聖書はこう言っています。

ほかの集会に出席された皆さんもご存じでしょう。

毎回、その通りではありませんでしたか。

もし事実なら、手を挙げてください。

——そうです。

今、他の人たちのために証言していただいています。

これは人の力ではありません。

神が証ししておられるのです。

28 私はそのことに何も関わっていません。

何を語るのか、自分でも分からないのです。

そして神はご存じです。

今夜祈りの列に並ぶ人の中で、私は一人も知りません。

しかし、これまで一度も失敗したことはありません。

どれほど重い病でも、どれほど苦しんでいても、

神は癒してくださいました。

それだけではありません。

聖霊は会衆の中にも語りかけます。

バルコニーにいる人のことや、

あらゆる場所にいる人のことを呼び出します。

それは真実です。

ですが、私が今述べているこれらのこと自体が、

あなたの癒しをもたらすものではありません。

癒しは、あなたがどう応答するかにかかっています。

ナタナエルは言いました。

「どうして私をご存じなのですか、ラビ。」

主は言われました。

「ピリポがあなたを呼ぶ前、あなたが木の下にいたのを見た。」

すると彼は言いました。

「あなたは神の子です。イスラエルの王です。」

主は彼の心の秘密を告げられたのです。

そうではありませんか。

また、サマリアの井戸のほとりの女のこともあります。

主は彼女と語られ、こう言われました。

「行って、あなたの夫を呼んで来なさい。」

彼女は答えました。

「私には夫はいません。」

主は言われました。

「そのとおりだ。あなたには五人の夫がいた。そして今いる人は、あなたの夫ではない。」

すると彼女は言いました。

「あなたは預言者だとわかります。」

それは、主の御霊が人の心を明らかにされたからです。

22 弟子たちが戻って来たとき、彼女は町へ走って行き、こう言いました。

「私がしてきたことを全部言い当てた人がいる。

この方がキリストではないでしょうか。」

さて、もし私が「私はジョン・ディリンジャーだ」と言ったら、

あるいは「ジョン・ディリンジャーの霊が私にある」と言ったら、
あなたは私が銃を持ち、彼のように振る舞うことを期待するでしょう。
もし私が「偉大な芸術家の霊が私にある」と言えば、
あなたは私に芸術家のような絵を描くことを期待するでしょう。
もし私が「熟練の整備士の霊が私にある」と言えば、
あなたの車のどこが悪いかを見抜くことを期待するでしょう。
では、もし私が「私は神の御霊によって生まれ、
イエス・キリストの御霊が私の上にある」と言うなら——
あなたは、私が主のなされたことを行い、
主のように振る舞うことを期待するはずです。
それは、人間を通して働く主の御霊なのです。
あなたはそれを信じますか。
主の御霊は、かつて青銅の蛇の上にも働きました。
それを信じますか。
また、ベテスタの池では、水がかき回されたとき、
信じて入った者は癒されました。
その水が「私はなんと偉大な水だ」と言えたでしょうか。
いいえ。
癒したのは水ではなく、水の上に臨んだ御使いでした。
御使いが去れば、それはただの水です。
人もまた、ただの人間にすぎません。
しかし、それが神の働きの器となるのです。

その人が立っているのを見ると、
まるでだんだん小さくなっていくように見えるのです。
ある年齢まで戻っていくように見え、
そこで起こった出来事を語り始めます。
そしてそれは、その通りなのです。
いつも完璧なのです。

27 数日前の集会でのことですが——
あの若い女性について、後で聞きました。
十四歳か十五歳のとき、結婚せずに子どもを産んだこと。
また、ある宗教的な人たちに勧められて、
本当は愛していなかった男性と結婚したこと。
そのことで多くの苦しみが生じたこと。
そして壇上に来る前、
ある特定の場所でしていたことまで語られました。
そのとき彼女は、
立って祈りながら、
「主よ、私を癒してください」と願っていたのです。
その場にいた方はおられますか。
それは事実でしたか。
——はい、ありがとうございます。
ここに証人がいます。
それだけではありません。

結果が現れます。

癒しも同じです。

長年にわたり、牧師たちはそれを語ってきました。

しかし今は、神が何か新しいことをなさっている時代なのです。

26 さて、今お話ししているこの賜物は――

すべての病を示し、罪を戒め、人々の心の秘密を明らかにします。

これは大きな主張です。

祈りの列に来る方は覚えていてください。

もし告白していない罪があるなら、

それはこの壇上から語られることになります。

どんなに隠していても、

どんなに恥ずかしいことであっても、

明らかにされます。

これは重大なことを言っています。

私は何千人もの前に立っていますが、

一度も失敗したことはありません。

いつも完全でした。

数日前の集会でも――

油注ぎの中に入ると、私は自分が何を語っているのか、ほとんど分からないのです。

後で人々が教えてくれます。

ボーモントだったと思いますが、

若い女性が壇上に来ました。

23 神は教派の上に臨まれるのではありません。

神は機械の装置の上にも臨まれません。

聖霊は人の上に臨まれます。

人こそが、神の働きの器です。

そして神にとって最も難しいことの一つは、

一人の人間に、もう一人の人間を信じさせることでした。

そう思いませんか。

人々はモーセを信じることはできませんでした。

そこで神は、彼が神から遣わされたことを証明するために、二つのしるしを与えられました。

民を解放するために送られた者であることを示すためです。

それを信じますか。

主は昨日も今日も、いつまでも変わらない方ではありませんか。

燃える柴の中からモーセに語られた御使いは、契約の御使いでした。

そうではありませんか。

その方は、昨日も今日も、いつまでも同じです。

そして今、ここにおられます。

当時なされたことと同じことを、今日もなさいます。

今もなお、しるしと不思議を行われます。

神は奇跡の神です。

常に、しるしと不思議を伴って働かれます。

そしてこれらのことは、終わりの日に約束されました。

私たちはその終わりの日に生きています。

ですから今、それを期待する権利があるのです。

主の民を集めるために。

24 イエスが来られたとき、

どんな人間も、主がご自身を「癒し主だ」と言ったとは言えません。

主はそう言われましたか。

いいえ。

主はこう言われました。

「わたしがわざをしているのではない。

わたしのうちに住んでおられる父が、わざをしておられるのだ。」

そうではありませんか。

神がキリストのうちにあって、

しるしと不思議を通して、世をご自身に和解させておられたのです。

主はメシアのしるし、

メシアである証拠を持っておられました。

そのしるしが、主がメシアであることを証明しました。

ですから、もし今夜私が、

神がある賜物を通して何かをなざったと語るなら——

私は賜物そのものを誇ることはしません。

賜物は、それ自体が語るでしょう。

そして私がキリストについて語るなら、

それが聖書に基づいているなら、あなたは私の言葉を信じてください。

もしキリストが私のために応答されるなら、

そのときはキリストを信じてください。

25 もし私が何かを語っても、キリストがそれを証しされないなら、
どうか信じないでください。

しかし、私が語ったことをキリストご自身が裏づけ、

「それはわたしがしたことだ」と証しされるなら、

そのときは主を信じてください。

それで公平ではありませんか。

さて——

賜物そのものが人を癒すものではありません。

それは、福音の説教者が人を救うのではないのと同じです。

説教者には人を救う力はありません。

ただ、御言葉の力の下で語り、人々を神の御言葉の知識へと導き、
悔い改めへと導くのです。

そして救うのは神です。

同じことです。

説教者にはしるしがあります。

力の下で語ることで、人の心に確信を与え、

人々が祭壇に出てきます。

そして信仰によってイエス・キリストを受け入れ、

その結果を見出すのです。

神に自分を委ね、

主に完全に明け渡し、信じる時——